

9月29日 使徒言行録27章1～44節

【解説と黙想】

ローマへの出発

この箇所は、皇帝直属の百人隊長がパウロをローマに護送する旅のうち、マルタ島に打ち上げられるまでの航海を描いている。1節から44節にかけて、出航の様子、航海の順路、長い航海における困難や危険の数々が記されているが、これらの出来事を取り上げて話すと時間がとても足りない。なので、航海の出来事は割愛し、この箇所の教えの中心に焦点を置くよう努めたい。

この箇所の中心的使信は、長く困難の多い航海においてもなお神がパウロを守り、確実に目的の港へ導かれ、その御心をなし遂げられるということであろう。ローマへの道のりは確かに遠く、主イエスの福音がローマに伝えられるために、実に多くの困難が伴った。それにも拘わらず、パウロを通して神の御業はどのような絶望的状况においても確実になされていった。その神のご計画に信頼しきって大胆に振舞うパウロの信仰にも目を留めたい。

とくに注目すべき箇所は21～26節と33～37節であろう。聖書朗読は27章全体では長すぎるので、21～26節を読むと良いだろう。ここには、人間の努力も空しく、事態が悪化し、もはや何の希望も見出せず、長いこと食事を取らず、失意と絶望の中に打ちひしがれている人々にパウロが語りかける言葉が記されている。人間にとって根源的に必要なことは、人間の限界を超えた領域において神の人を通して語られる御声に聞き従うことである。パウロはそうした事態の

中で、なお神の人としての務めに生きる。「元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです」(22節)と、恐怖におののく人々に、少なくとも人命は守られると予告して生きる希望を与えた。

なぜパウロはそのような発言をすることができたのだろうか。それは、神が天使を通して「パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ」(24節)という言葉のパウロに語られたからである。万策尽き、人間の希望がすべて閉ざされたとき、神は御声をかけてくださる。神の天使はさらに、パウロと同船した人々の生命も保証した。それは、パウロの使命遂行のために必要であったからである。一人の伝道者の存在とその使命が遂行されるために、そこに乗り合わせた人々の生命もまた守られた。ここに一人の伝道者の存在理由を見出すことができる。神と教会に仕える一人の伝道者の祈りと使命に、周辺の人々の生命がかかっている。私たちは、目に見える事態がどうであろうとも、熱心に神に仕え、祈り、その与えられた使命を自覚し、常に神の御前に忠実に生きなければならない。そのように神としっかりとつながる者になることを、教会学校の子どもたちに勧め、祈りに導きたい。(小澤寿輔)

《参照箇所》 使徒言行録27章22～26節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問44

9月29日 使徒言行録27章1～44節

【説教展開例】

ローマへの出発

◇----- 単元のねらい -----◇

暴風に襲われたとき、「皆さん、元気を出しなさい」と周囲を励ますことができたパウロの信仰はどこから来ているのかを教え、子どもたちに恐怖や不安の中にあっても人を励ますことのできる神の人になることを求めるように勧めたい。

「ですから、皆さん、元気を出しなさい」

僕たち私たちは、これまで教会学校の礼拝で、パウロさんの周りで起こったこと、パウロさんの行ったこと、パウロさんの信仰の姿などについてお話を聞いてきましたね。パウロさんは、いつでも、どこへ行っても、自分と出会う人たちが神さまを信じることを願い求め、大胆にイエスさまのお話（福音）を宣べ伝えていました。先週の教会学校の礼拝で、フェストスから「パウロ、お前は頭がおかしい。学問のしすぎで、おかしくなったのだ」（26：24）と馬鹿にされ、アグリッパ王からは「短い時間でわたしを説き伏せて、キリスト信者にしてしまうつもりか」（26：28）とからかわれたというお話を聞いたと思います。しかし、パウロさんはいつでもひるむことなく、神さまのお話をし続けました。

もし、神さまと自分との関係（信仰）がしっかりとしていなければ、調子の良いときには神さまを信じる人のように振舞えても、ちょっと調子が悪くなると全く神さまと関係のない人のようなことを口にしたたり、行ったりすることになります。それでは神さまに喜ばれる生き方をするできません。もし神さまと自分の関係がしっかりとしていれば、そういうことはありませ

ん。日本人は、どこへ行っても日本人ですよ。それと同じように、神さまとしっかり結び合わされていれば、辛くて不安な所へ置かれても、暗い所に置かれても、変わることなく神さまの子どもとして輝くことができます。そのためには何が大切なのでしょう。そうです、僕たち私たちがイエスさまのものになっていることが大切です。イエスさまのものらしいでは足りません。イエスさまのものになっていることが大切です。

では、どうすれば僕たち私たちはイエスさまのものになれるのでしょうか。それが今日の聖書箇所で教えられています。

パウロさんは、イエスさまのお話をしていたらユダヤ人の宗教指導者たちから罪人扱いされ、裁判に訴えられてしまいました。しかし、パウロさんは自分には罪がないことを訴え、皇帝に裁判をしてもらうため、兵隊の百人隊長に連れられて、広い海を航海してローマという所に向かいました。ところが、その航海の途中で大きな事件が起きました。エウラキロンと呼ばれる激しい暴風が吹き降ろして来て、船が沈みそうになり、助かる望みがなくなりかけてしまいました。そのときです、パウロさんは立っ

て「元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです」(22節)と言って、みんなを元気づけました。すごいですね。

でも、どうしてパウロさんだけは元気で、みんなを力づけることができたのでしょうか。パウロさんだってみんなと同じ、今にも沈没しそうな船に乗っていたのです。ですから、みんなと同じように恐ろしくて不安な所にいたのです。自分も恐ろしくてたまらなければ、悩んでいる人たちに「元気を出しなさい」とは言えないはずですよね。どうしてパウロさんは最後の望みがなくなったときにも望みを持つことができたのでしょうか。それは、希望の持てないどん底で、神さまの言葉を聞いたからです。それで人々に「元気を出しなさい」と言えたのです。パウロさんは、「わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、こう言われました」(23節)と言いました。また、「わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります」(25節)と言いました。それらの言葉から、パウロさんは自分の力を捨てて、自分のすべてを神さまの御心に任せきっていることが伝わってきませんか。それだから、パウロさんは恐怖の中にあっても、神さまからの声を聞くことができたのですね。

絶望的な状況の中で、何を見て、何を聞き、何に身を委ねるかが重要です。パウロさんは、「パウロ、恐れるな。あなたは皇

帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ」(24節)という神さまのご計画の言葉を聞いたのでした。その言葉を聞いてパウロさんは励まされ、その結果パウロさんがみんなを励ましたので、みんなは元気づいて食事をしました。そして、神さまの御心の通り、同じ船に乗っていた276人全員が無事に救われて島に上陸することができたのでした(44節)。

適用：世の中には、僕たち私たちを不安にさせることがたくさんあります。希望をなくすような事件や問題がたくさんあります。いじめ問題もそうでしょう。そういう状況の中にあっても「元気を出しなさい」とお友だちを励ますことができたらいいいですね。そのためには、まず、僕たち私たちが神さまのものになっていることが大切です。どんな状況に置かれても、神さまを第一にします。神さまを生活の中心にします。それが礼拝です。そして、聖書の言葉を通して自分に語りかけてくださる神さまの声に耳を傾けます。パウロさんが困難や恐怖のただ中にいながら、恐れに捕らわれないで神さまからの声に耳を傾けることができたのは、神さまとの関係がしっかりできていたからです。僕たち私たちも、神さまの言葉を聞いて、お友だちや周りで困っている人に本当の励ましを与える子どもになりたいですね。きつとなれます。そのような励ましの子どものになれるよう、神さまにお祈りしましょう。(小澤寿輔)

《今週の暗唱聖句》

ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。(使徒言行録27章25節)

9月29日 使徒言行録27章1～44節

【小学科上級・中学科】

ローマへの出発

1. 使徒言行録27：1～12を読みましょう。

①百人隊長がパウロを特別扱いしたのはなぜだと思いますか。

②なぜ百人隊長は、パウロの意見よりも船長や船主の方を信じたのでしょうか。

2. 使徒言行録27：13～38を読みましょう。

③神さまはパウロに何とおっしゃいましたか。

④船に乗っていた人々はどうしましたか。その結果、どうになりましたか。

⑤パウロは天使に何と告げられましたか。それをどう伝えましたか。

⑥あなたがこのような状況になったとき、どうしますか。

⑦1回目にはパウロを信用しなかったのに、2回目には聞いたのはなぜだと思いますか。

3. 使徒言行録27：39～44を読みましょう。

⑧百人隊長がパウロを助けたいと思ったのはなぜですか。

⑨パウロを通して、神さまの助けと導きがあったことについて考えてみましょう。